


掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 1(ニューズレター No.63 2011.1.11 発行) 「低平地 Lowland」 執筆：山西</p>  <p>六角川から上流を望む風景</p>	<p>今回より、低平地を切り口としたいいくつかのキーワードについて、簡単な説明とともに皆様の豆知識として役立ててもらうための記事を連載してまいります。第 1 回目は、「低平地」です。「低平地 Lowland」…狭義には、「海岸や河川などの平均水位よりも低い沖積平野」と定義されますが、広義には、「海、河川、湖などの水域周辺にあって、水位変動の影響を受けやすい環境下にある平地」として定義されます。したがって、世界各地の人間活動の活発な地域の多くは低平地と定義できるでしょう。佐賀平野は広大な低平地であり、世界的にも屈指の軟弱地盤によって形成されています。また、北は背振山地を背し、南は日本有数の干満差を有する有明海に面しています。平野内を流れる河川の多くが、天井川であることも特徴です。したがって、洪水などの災害を受けやすく、また排水もしにくいといった問題もあります。一方で、低平地は平坦で水の集積がしやすい特徴から、生物・生産活動が地球上でもっとも活発な地域でもあります。世界的な文明の多くがこのような低平地域を中心として発展してきた経緯を見れば容易に理解できるでしょう。このように平坦で都市空間としての有利の面を持つ低平地での快適な空間形成の創造は、今後も益々重要となってくるといえます。</p>
<p>その 2(ニューズレター No.64 2011.3.28 発行) 「有明海沿岸低平地域における地下の層序」 執筆：日野</p>	<p>有明海沿岸低平地域の地下には、軟弱な粘性土層が厚く堆積しています。この下位には砂層や礫層が堆積しています。前者は沖積層、後者は洪積層と呼ばれていましたが、これらの呼称は正しくありません。今日では、沖積層は完新統、洪積層は更新統のように改められています。完新統の堆積年代は 1 万年前から現在まで、更新統の場合は約 260 万年前から 1 万年前までです。完新統には有明粘土層、蓮池層上・下部が含まれます。更新統には三田川層、阿蘇-4 火砕流堆積物、中原層上・下部、高木瀬層、阿蘇-3 火砕流堆積物、川副層、牛屋層が含まれます。有明粘土層と高木瀬層は、海水環境で堆積した地層です。他の地層は汽水から淡水の環境で堆積した地層です。地下では、下位に向かって粘性土層、砂層、礫層がサイクリックに堆積しています。基盤岩と呼ばれる地層はあるか数 100m の深さです。“半割”による地質コア観察が様々な情報をもたらしてくれます。</p>